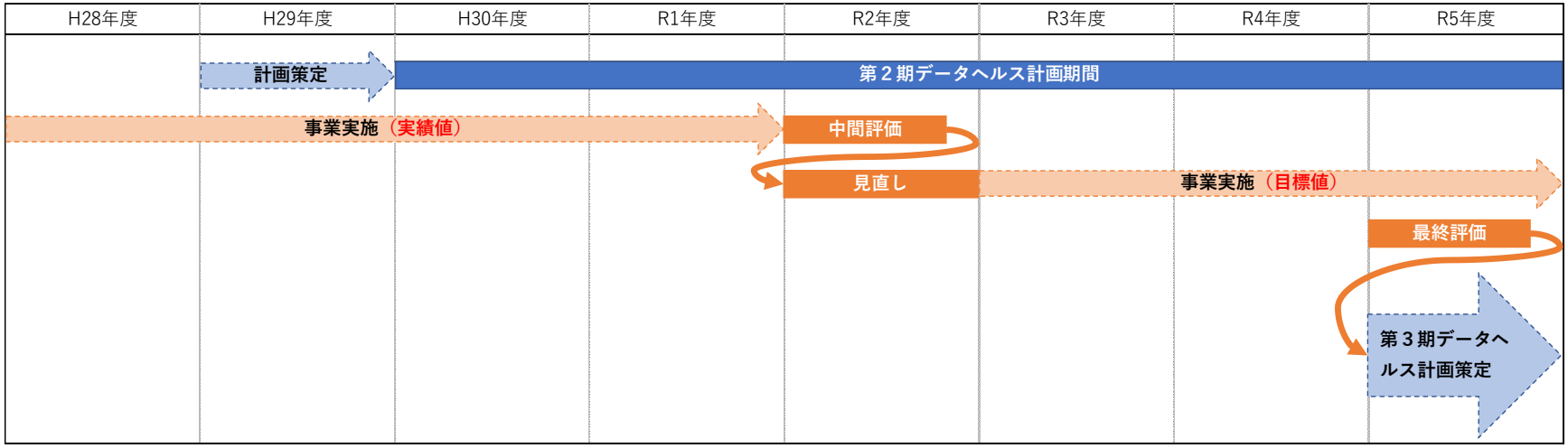
橋本市 第２期保健事業実施計画（データヘルス計画）
―　中間評価　－

１　中間評価の目的

平成 30 年 3 月に策定した第 2 期データヘルス計画（平成 30 年度から令和 5 年度）に基づき、被保険者の健康保持増進に取り組むため、保健事業を実施してきました。計画の中間時点において、事業の進捗状況を確認するとともに目標の達成状況を評価し、計画期間の後半に向け、事業の方向性と体制や実施方法を検討することを目的に中間評価を実施しました。

なお、計画の最終年度において、計画全体の目的・目標の達成状況を評価し、次期計画策定に向けて保健事業の評価と見直しを実施します。

≪第 2 期データヘルス計画の評価・見直しのスケジュール≫



2　評価方法

（1）計画全体の目標と実績値の推移

計画全体の目的・目標を確認したうえで、計画に記載の評価指標（目標）に基づき実績値を収集し、計画策定時の現状値（平成 28 年度)からこれまでの実績値の推移をみて、以下の 4 段階で評価しました。

a：改善している　　b：変わらない　　c：悪化している d：評価できない　※長期目標のため実績値を毎年度収集できず最終年度のみで評価する場合など

（2）個別保健事業の目標への到達状況

計画に記載の評価指標に基づき実績値を収集し、目標※への到達状況を確認しました。計画策定時の現状値（平成 28 年度)からこれまでの実績値の推移をみて、最終目標に到達できそうかどうか判断し、以下の 4 段階で評価しました。

※計画では令和 2 年度を中間評価の目標値として設定していますが、令和 2 年度中に中間評価を実施するため令和元年度の目標値で評価しました。
なお、個別保健事業は毎年度目標値を設定し実施しています。

a：目標に到達している b：目標に到達していないが、最終目標は達成できそう c：目標に到達しておらず、最終目標も達成できそうにない（平成 28 年度と比べ改善している） d：平成 28 年度と比べ悪化している

（3）個別保健事業の評価と今後の方向性

事業毎に実施状況を整理し、課題と改善点を明らかにしたうえで、計画期間の後半に向け事業の継続、拡充、縮小のいずれかの方向性と、実施体制や方法の工夫や変更を検討しました。これらを踏まえ、最終目標値についても現状維持、上方修正、下方修正のいずれかを検討しました。

（4）計画全体の今後の方向性

個別保健事業の評価結果と合わせ、計画全体の目標達成のために強化すべき取り組み等を検討しました。なお、保険年金課、いきいき健康課が連携し、和歌山県及び国保連合会支援・評価委員会の助言を受けながら中間評価・見直しを実施しました。

3　評価結果

（1）計画全体の目標と実績値の推移

≪データヘルス計画の目的≫

被保険者が健康維持の重要性について理解し、自ら健康増進に努めるとともに、健康状態の把握や生活習慣改善に取り組む。

計画全体の目標		実績値				評価
評価指標	目標	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	
糖尿病　被保険者 1,000 人当たり患者数※1	減少	112.5	114.2	113.5	119.1	c
糖尿病性腎症　被保険者 1,000 人当たり患者数※1	減少	12.3	10.0	10.6	11.6	b
高血圧症　被保険者 1,000 人当たり患者数※1	減少	210.5	211.9	212.8	219.4	c
脂質異常症　被保険者 1,000 人当たり患者数※1	減少	182.0	183.3	187.5	193.1	c
健診受診者の内　収縮期血圧の有所見者割合※2	減少	45.8	47.9	49.5	50.9	c
健診受診者の内　LDL コレステロールの有所見者割合※2	減少	53.8	55.0	54.6	55.2	c
健診受診者の内　HbA1c の有所見者割合※2	減少	49.2	52.5	51.1	55.2	c
評価（4 段階）　a：改善している，　b：変わらない，　c：悪化している，　d：評価できない						

※1：KDB「様式 3-1 生活習慣病全体のレセプト分析」（各年度 3 月分）　※2：KDB「様式 5-2 厚生労働省様式　健診有所見者状況」（各年度）

（２）個別保健事業の目標への到達状況

事業名	評価指標	目標値		実績値				評価
		（中間評価）R１年度	（最終評価）R５年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R１年度	
特定健康診査受診率向上事業	特定健康診査受診率（%）※1	45	60	36.0	38.7	38.3	39.0	c
特定保健指導事業	特定健診受診者の内の特定保健指導対象者率（%）※2　§	10	10	10.8	13.3	13.9	13.7	d
糖尿病性腎症重症化予防事業	新規透析患者数（人）※3	10	9	11	11	10	10	a
ウォーキングデイ事業	参加者数	平均 80 人前後	平均 80 人前後	79	79	79	77	b
脳ドック助成事業	受診者数	180 人	180 人	180	180	180	122	b
ジェネリック医薬品差額通知事業	ジェネリック医薬品普及率（数量シェア）	75%	80%	69.6%	72.9%	76.7%	78.2%	a
評価（４段階）　a：目標に到達している，　b：目標に到達していないが、最終目標は達成できそう c：目標に到達しておらず、最終目標も達成できそうにない（平成 28 年度と比べ改善している），　d：平成 28 年度と比べ悪化している								

※1：法定報告、※2：法定報告をもとに算出、※3：国民健康保険特定疾病療養受療証交付申請集計、※4：国保総合システム数量シェア集計表

§事業の効果を測定するため、策定時に設定していた評価指標からより具体的な指標に変更しました。

（３）個別保健事業の評価と今後の方向性

事業名	上手くいった点、工夫した点	計画通り進まなかった点、理由	今後の方向性	見直し後の最終目標値（R5 年度）
特定健康診査受診率向上事業	通知、電話勧奨を一連の流れで実施している。 医師会に協力を依頼。加療中の人への受診勧奨の協力を得ることができた。	加療中の人が未受診であることが多い。若年者の受診率が低い。 電話勧奨の時点で受信済み、もしくは農作業で秋の集団健診はいけないと回答する者が多かった。 令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響で受診控えが増えた。	特定健康診査受診率は上昇しているが目標達成していない。通知、電話勧奨を継続実施しながら、地域性を考慮した集団健診の実施、加療中の者や若年者等、新たな層へのアプローチ等を行っていく。	特定健康診査受診率：60%
特定保健指導事業	通知・電話・訪問と複数のアプローチをしたことで対象者の意識付けができた。集団と個別支援で利用しやすいよう配慮した。	若年者の参加が少ない。仕事をしている人が多く、保健指導につながらない。 特定健診受診率が上昇し、保健指導対象者が増加した。機構改革等で人員体制が不十分になった。 令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施量を満たせなかった。	特定保健指導対象者の減少率は低下している。対象者の増加に対応するため、人員増員もしくは委託の検討を行い、最終目標値の達成を目指す。複数のアプローチや特定保健指導教室を継続するとともに、特に個別支援を充実させる。	特定健診受診者の内の特定保健指導対象者率：10%
糖尿病性腎症重症化予防事業	庁内及び市民病院スタッフと密に連絡を取り合った。また、圏域や医師会と情報共有・協力依頼を行ったことでスムーズに実施	令和元年度後半には新型コロナウイルス感染症の影響で保健指導の通知をすべての対象者に送付できなかった。	新規透析患者数は維持できている。引き続き、圏域・医師会・市民病院と協力しながら受診勧奨・保健指導に取り組	新規透析患者数：9 人

	できた。通知発送から電話勧奨と丁寧にアプローチできた。	健診結果からの受診勧奨における医療機関受診率は高いが、治療中断者の受診勧奨による医療機関受診率が低い。	み、最終目標の達成を目指す。受診勧奨は、治療中断者の受診勧奨を重点的に取り組む必要がある。保健指導は主治医と協力しながら丁寧な支援を実施する。	
ウォーキングデイ事業	周知のため広報だけでなく、ホームページにも事業状況を掲載している。 スタンプカードを配布し、10回貯まるごとに景品のタオルを渡している。 適度なウォーキングができるコースを選んでいる。	高齢を理由にウォーキングボランティアを脱退した者がいた。 目標の参加人数より減少したが、20年以上同程度の参加者数を維持できている。	毎回80人前後の参加者があり、新規に参加される方も見られ概ね好評である。 R5年度まで現状を維持できる体制にある。引き続き事業を継続する。	参加者数80人前後
脳ドック助成事業	脳ドック受診者との日程調整が大変であるので、受付時に確実に連絡の取れる電話番号を記入してもらうように徹底した。	受診者数が目標の180人に対し、令和元年度122人であった。 前年度、前々年度にこの助成を受けていない者を対象としている点を考え直す必要がある。	受診者が減少している。 前年度、前々年度にこの助成を受けていない者を対象としている点を考え直す必要がある。最終目標は現状を維持し、事業対象者の見直し、状況に応じて市広報で追加募集を行う。	脳ドック受診者数180人
ジェネリック医薬品差額通知事業	死亡者への通知は行わず、混乱を避けている。ジェネリック医薬品を使用する人が増えており、事業対象者が減少している		ジェネリック医薬品普及率（数量シェア）78.2%であり、目標の80%に近づいている。 最終目標は現状を維持し、引き続き事業を継続する	ジェネリック医薬品普及率（数量ベース）80%

4　計画全体の今後の方向性

	中間評価後の最終目標値 （R5 年度）
データヘルス計画策定時の健康課題の状況をみると、高血圧症、糖尿病、脂質異常症等、生活習慣病の患者数が悪化しているため、引き続き特定健診受診率、特定保健指導実施率の向上と、糖尿病性腎症重症化予防事業の実施体制の充実をめざします。 特定健康診査受診率向上事業は通知や電話による勧奨等が受診率向上につながっているため、今後も事業を継続し、より効果的に勧奨できるよう取り組みます、また、糖尿病を起因とする腎不全が多く、医療費も高額になることから、糖尿病性腎症重症化予防事業について、関係機関と一層連携し積極的に取り組みます。	（被保険者 1,000 人当たりの患者数） 糖尿病：100 人 糖尿病性腎症：10 人 高血圧症：200 人 脂質異常症：180 人 （健診受診者の内、有所見者割合） 収縮期血圧：45% LDL コレステロール：53% HbA1c：48%